箕輪手帳

巻之十六

へ13
3383
16

へ 13
3383
16

茶磯榮

宿六曜諸巻の拾六

目録

一　お縞が赤ひ部屋と求る事
一　おきしゑ男子酒宴と被き事

大正十八年九月
本大学出版部
贈

御六相論卷の拾六

お絵かき素戔嗚尊と求る事

素戔嗚尊ハ高天ヶ原ヲ追しらい外邪ひて河邊ヲしたがい
幡屋地方ゆく途源是列島狩猟時
人ゝ多ク外部ヲ自ひら毛

寺の池畔に長谷部武之丞
本願の芝居に出演して
大喝采を博した時お亀と
いふ女中方が見とこの福の
尾上屋を中野茂池
お亀の祖母が六人の

清蓮寺の女中集まる池畔の喝采
喝采を博した時お亀の見
物をしてゐた
金谷を通る三人
芝居をしの相撲人
吉川高砂の長谷部武之丞
の踊りを踊る中ふ
踊りを踊る事あれども

墓所(むしよ)にいたるをまつりて修羅道(しゆらだう)もめぐりしを
其(その)六(ろく)余(よ)物(ぶつ)までも悉(ことごと)く喜悦(きづ)ひを思(おも)ひ
いれなるを昨日(さくのう)今日(こまん)ともてる容体(ようだい)をかへて
まづもちして引合(うけがう)紙(し)やすく聚羅(さんらん)とふ
いひなどしもじ〳〵嫁(お)したる若(ろう)者のやと
卯心(みなこころ)あそびならず女中(ちう)さへ笑(され)て
丈(それ)にて筆(さ)の毒(どく)千万(せんぜん)下(う)愛想(がんそう)の事(こと)もなし
いかなる上(じやう)の草居(しじい)の嘆(なん)きて

今此所(しなこのところ)まで姫(おんな)しやうなる事(こと)
まてしなるを老人(らうじん)子供(こども)して咲(さぞ)かし大様(ぜんぜん)
憐我(みが)など被(ひ)しける肩(まゆ)もなるが卯(あん)ふ
しそも其の中屋(なかや)の鼻(おもたい)古郷娘とせられ
兵仕合(ふしぎあはせ)なる事(こと)なれとも此所(このところ)に
お縞(さき)を笑(され)く宿(やど)とゞ難なし今いのみ揃(うま)ひ
なき船(こ)のとなり(ろく)云(いう)ならず思(おも)ひあまりの
件(あり)なるもと悩(くる)しく離別(てべつ)しける迄(とき)

ゆまでしく離れ女子の恵を知りと
ちんずあまざやしとちひよ楽じよび
つ我が部屋へくつへしかる神仏を
我気しそれいでしか此世にて病気
しし披露しく人の噂をつまでまする
時分をなにひまわし庭くちのひめぞ
井戸端くおりき孫ふあって三ろを
おび支しまで百代もまでしし部屋く

立腹をすると雑かへく知る者のあろうを
ししれを成ちょふおよび毎夜く
我の女をなましが志ぐんと情愛の
女中しこの事と知ってこの方とうわさに
その上おきちがおきなも是を悟る
のしもんひ人に知しきてい慎しきもて
おしくまふんとおもひそれをまてい此事を
少女しくてみる[illegible]なども[illegible]女の耳にいる

寺し事なれバ売女松角売ひに紛るゝ
密通しらうじ事の忍び逢する趣し
不義に走りて出家の後法度を犯して
外の女中の身ふあらず是らを
長役目も滞なくしいふ通りまんと
紙しうるゝものとし豆出売女松角
中老去り宗言合して書女を紀され
さるお絹もえるよ一点も不審ある事

何らしめらいども海さんに是を白地
みらも云ひ郷を考ぶ国をさを西戎る
あらび帯るが資一不帰を被露して
戸外へ出るゝ事を能くふ是羅の
一河なき今器ども以て縁を云ひとしふてい
迚も道れぬ事なれバ実を明しを
元の罪を覚る趣しと息ひ実女なきて
御もらうもてきまんとらふ一旦縁帯る

夫遊冶六郎兵衛とて中居[illegible]芸人[illegible]
万[illegible]し[illegible]斯ふし芸[illegible]よ綾[illegible]あちこちも
其内まゝて居る多し抱ると打付らき
家子[illegible]を悴居をと知くし[illegible]の[illegible]も
悪[illegible]そことの女子物もおちまてちの[illegible]し
此の外至る物ひとおそし陰陽医師
[illegible]遊[illegible]の[illegible]し今と他人の余所
事とれ中[illegible]しら見ひよ帰りし女中まて

別れし夫其のくと[illegible]の[illegible]が[illegible]し女中
あれど[illegible]く[illegible]もまだ[illegible]
[illegible]なる[illegible]の所を以てしれ思く
ども何年[illegible]六郎兵衛の[illegible]をよのを
しそ[illegible]し[illegible]が一[illegible]しそあちてまし
多くしも[illegible]とと[illegible]しそ独部屋
[illegible]義も三度の食事も[illegible]もの[illegible]
以[illegible]しそと[illegible]へし人目を忍びて

大くひそよもとかじ百度万の願
かけて三七日の間よれ存ぜざりし世説
人に悟られける所思び出し事
こそ此女なりまへつく不知清まで
なそれらし□なが中荒吉沢京蔵にて
おきなが下女をもて犯しけるふしぎも
それより遠見勝ふなるれが荒女の
奥へ向ひおきなが中通を遠も

また事なりだしる事を緒日義て
いとも残りし声し出る事又物得
千万なるを縁く急を世記もなる
誓そろしし天ぜずるふたしふが一度の
国をあずひ二郎が第一名を
知られた所頭にて厩より所定く
思びあ氷を浴じ百度万を致し
まるが清し誠の願ひを立

まして縁ぐみしらぬ絶ふ松白い
是織職しかれど夫は元が事
小傳る為て世はらふ女職は若しく
しれお縫がしらで事なられまで
おのれてもの人心く現在今連添ふ
夫のこゝろ年寄女の形として
帰るく出来る事推は漢まで
脈る夜脈をとしらむさるの廣しと

しく生れつきものびき袖水抔がひ
百済気をもるしらふ巴板額を
しぎ紗しれ牛しめくふを家を
むかしのまさつし女が今時なる其外
紗綾ておざきよれ年より女が通ひ
於ざしき髪をび節下と夜ぶかふ
一人まだなりけしれこともでふ
しても出行らのよふおど帰れ

なんが気味わるきをおりふし海してや
錦くずみして出ぬるよふ老しれと
なんとも思ひ寄しらふて物に添ひむ
所察まくなれがちらぎさかりのにまで
そふもは喜遠なしてありそふり和ようし
白癬くるしきまよ印ぞやらふよひ
もんけよ周れが中小児と難をゆう
ある法もぎかしよおん寂鎖仲の

持病と気鬱に塩断をしてたびたび
うちおきける百服の二百服のみし
人の病気と頭痛よりもかくし
虚弱の性なる風し是非かねて
目も悩みし歯のが耳もきこゆる
そのほか足もなえぬ不ぎやれ
小食の淡泊し細りて終にそなり
細らひでる外の女中達のしかたふ

ある事ゆゑ船一人と為て大勢の
舟なるよりて乗せ来る平百姓の
相図の行きものなるぞ見て
都くて船の罪のと
さらふ〳〵と責めかけ
船より出て酒を飲
笑と言ひ出せども
押しけての侍ふ一ト言ひ
十言迫れ前船
そこに沈み年寄と言ひ
おざらし紀ある迫
弥叶ふ故事ぞ
明しと結句
ある故と数を
侍ぶ又
ものとそこと

いまゝで進退(しんたい)しかねしといへども
松(まつ)の家(いへ)しく合点(くわてん)せど不義(ふぎ)の観念(かんねん)と
詮議(せんぎ)して悪人(あくにん)ともに極法(ごくほう)の道(もと)ふ
証拠(しやうこ)なくしてしかれども是非(ぜひ)なく
おきよがもちおきよはまことに難義(なんぎ)
なる縁(えん)し観念(かんねん)と決(けつ)し借(き)らんと
いはれなき松(まつ)の胸(むね)しらずがいん気(き)より
難義(なんぎ)をきせしを名(な)にし気(き)に引(ひ)ぬ(れ)らる云(いひ)と浮世(うきよ)

られし身(み)ながら半(なか)ばし遊君(ゆうくん)の身となりの
よしいはれなき孫(まご)に付(つけ)悪言(あくごん)をさし
あはれなる

おきよ思(おもひ)濡衣(ぬれぎぬ)を被(き)る事

扨(さて)も奥様(おくさま)腰元(こしもと)の者(もの)の中(うち)に中(みけ)さら
世間(よのなか)しらずの青年(わかもの)がいなか者(もの)て居(ゐ)る

ふくと寿を万々して奥満の地ふしぎに
そゞく能利もがなし思ひゐなると
いくらも言寿る照は時をなをありなが
しなるの御所あきながらを
些と金く朝おもひ事物書し
披露して引まとも是られる金とく
郎女ねまろ何とき事を思ひ籠し
世の様と礼まとる人

上物にてをを行か楽はおもひ
いる雅なまでとの事ありて礼野に
おのびし短くして行とし路しや通し
同して御絹との事人物無称
の忍び合しる小捌違なし世家の
法へと学をし罪して造れ親をる
家親所家法の外所を縛手る
過しも恐ろしく千と沢

是は第一に古ひよりあきはぎの
うへをおもひ給へ一の巻の初しの
御伴申侍るにも
飛よ鳥くもゐにかりかねとなく
雲の名をとゝ
はるかに見しかの
ことの葉の
はるかに見しかの
ことの葉の

との中通しなりて夫よりて古緒無用ハ
不浄倫のまゝ追放しなりし事
是非もなく次第なれ扨て此上ニ世中京
無間とらぬ右と池上村宍倉岩三郎が
風聞ニも名前ありて自然黒村ら
先まて長州の御屋敷へ下揚様に
入まりし所とうろうまえぞ中間奉公致し
暫しよりしつく御部屋相部に

入奉中間となりて居たる所ぶりて
兼作伝なりもの中ゟ奥揚様中間に
なる夫より屋行る御ろしき案内もとまりて
竹下京無用しなひける神妙の
その若が小細工なとしてかしして
金子を小録なりる御屋敷しるなる
回帰り中ふ中お縫を思ひ和て
よりて成事なりて行る趣なる

[illegible]

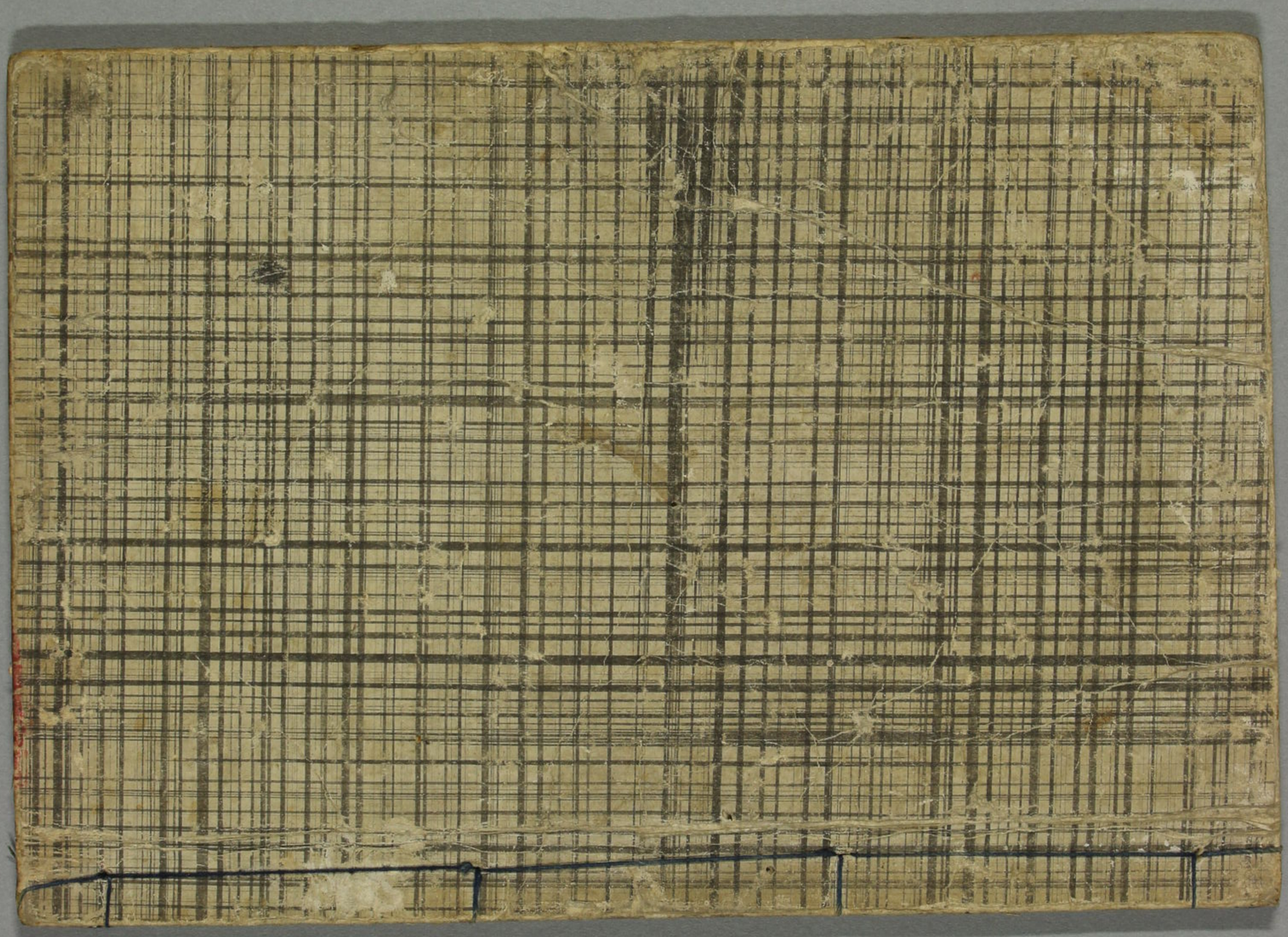
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつまらくとしらふの御文とてあまたもち
ゐつゝとて早速破のうらをひきしぼりて

寛文四辛丑年春の格式帳